広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第44号　2016.3〉

中学校における教科間連携による21世紀型学力の育成のための実践

－英語とアートを通したグローバル教育交流を通して－

松尾　砂織　松本　裕子　木坂　香織　深澤　清治
内田　雅三　中村　和世

１．はじめに

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」によると，社会のグローバル化に伴って，グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成が求められている。こうした社会的変化に対応すべく，カリキュラム・マネジメントの確立が必要となり，その実施に向けては，各教科の教科内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列することが挙げられている [1)]。私たちは，英語科と美術科の連携により，外国語を使って理解・表現する等，言語に関する能力の向上とともに，芸術の学習を通じて感性等を育むこと等により，日本文化を理解して自国の文化を継承したり，異文化を理解し多様な人々と協働したりすることができるようになることをめざし，本研究に至った。

２．研究の目的

本研究は中学校の教科担任がグローバル教育の意識を持ち教科間の単元・題材を接続し交流することにより，習得した知識・技能を地域社会へ向けた実践に活用させ，21 世紀型学力 [2)]へ通じる通教科的な実践力の育成の在り方を明らかにすることを目的とする(図１)。

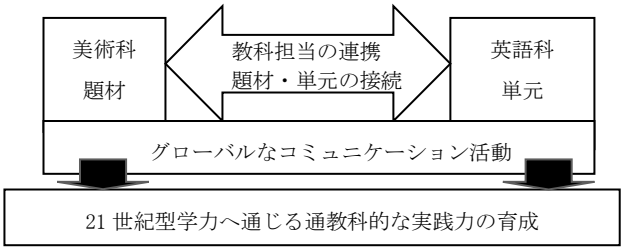

図１　研究構想図

３．めざす子ども像とつけたい力

（１）めざす子ども像

美術科では，めざすこども像を「表現や鑑賞の活動を通して，自分や友だちの感じたことや考えたことを大切にしながら，粘り強く自ら創造することを楽しむことができる子ども」としている。また，英語科のめざすこども像は，「外国語や外国の文化に関心を抱き，理解しようとするとともに，様々な人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする子ども」としている。このことを踏まえ，本研究における両教科の接続によりめざすこども像を次のように設定した。

＜美術科と英語科の接続によりめざす子ども像＞

自分が表現したり鑑賞したりして気づいたよさや美しさを外国の方に伝える方法を考え，粘り強く積極的にコミュニケーションをとって伝え，文化を通して相互理解を図ろうとする子ども

（２）つけたい力

本学校園では，研究開発学校指定事業（平成 24 年度～平成 26 年度）において，新領域「希望（のぞみ）」の時間を通して育成してきた資質・能力である「人間関係形成・社会形成能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力」を本年度は，通教科的能力として，全教育活動において育成することとした [3)]。そして，その通教科的能力と関連的に育む各教科の本質に根ざした資質・能力とは何かを明らかにし，その指導方法や評価について明確にして取り組むこととした。

したがって，本研究においても，美術科及び英語科で設定した「通教科的能力と関連的に育む各教科の本質に根ざした資質・能力（表１）」をめざす子ども像に向けつけたい力として位置づけるものである。

Saori Matsuo, Hiroko Matsumoto, Kaori Kisaka, Seiji Fukazawa, Masazou Uchida, Kazuyo Nakamura:
Practice for the Development of 21st Century Academic Achievement by Subject between Cooperation in Junior High School—Through the Global Educational Exchange by Means of English and Art—

表１　通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力

教科名	教科の本質	通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力		
		人間関係形成・社会形成能力（関係を構築する力）	**キャリアプランニング能力（なりたい自分になる力）**	**課題対応能力（達成へ向かう力）**
美術科	美意識（造形的な活動の中で働く「美しさやよさに関する価値の意識や感情」）	○作品などの主題設定・追求を通して自分の価値意識をもたせ，異なった見方や考え方を尊重しながら，批評し合うことを通して，自分の中に新しい価値（豊かな情操）を創り出したり，他者との結びつきを深めたりすることができる。**（造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力）**	○造形活動を通して，自分の生き方や社会とのかかわり方に関する考え方を創り出すことができる。**（造形活動を通して，新しい可能性をイメージする力）**	○主題を生み出し，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして構想を練り，粘り強く創造的に表現することができる。**（表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力）**
英語科	言語や文化に対する理解を深めるとともに，外国語を用いて積極的にコミュニケーションをとるための手段	○英語を使って考えや気もち，事実を伝え合いながら，さまざまな人とよりよい人間関係を築くことができる。**（コミュニケーション能力）**	○異文化を理解し，自文化を見つめ直したり比較したりすることを行う中で，文化の価値や自分の生き方について考えることができる。**（自己存在感・自己有用感）**	○他者とかかわりながら，粘り強く課題に対応することができる。めあてや目標に向かって，課題に取り組むことができ，学習したことを振り返ることができる。**（課題解決力）**

４．研究仮説と検証の視点

（１）研究仮説

中学校の英語科・美術科の教科担任がグローバル教育の意識を持ち，単元・題材を接続させ，連続性のある指導をすることにより，生徒は習得した知識・技能を地域社会へ向けた実践に活用し，21 世紀型学力へ通じる通教科的な実践力（人間関係形成･社会形成能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力）を育成することができるであろう。

（２）検証の視点および方法

具体的な検証材料は次の①～③のとおりである。

① 単元・題材の事前事後に質問紙調査を実施する。
② パフォーマンス課題・ルーブリック評価による教師の見とりとその分析を実施する。
③ 生徒の振り返りや感想の内容を分析する。

また，外部評価者としてアメリカのアートリンク担当者やショートステイ家族に協力を依頼し，生徒の取り組みに対し感想を述べてもらうようにし，その内容を分析する。

５．研究の方法

本年度は次の２つの活動を実施する。

（１）修学旅行でのショートステイ活動

中学校２年生は 12 月に沖縄に修学旅行に行った際，半日アメリカ人家庭で英語を用いてコミュニケーション活動を行う。本研究では，この取り組みをとらえ，美術科における「仏像」や「鳥獣人物戯画」といった日本の美術の鑑賞の授業と英語科の単元を接続し，美術で制作した模写作品に英語で日本文化の紹介を添えてカードを作成し，コミュニケーションの１材料とした。この活動を通して①コミュニケーション能力を高めること，②自国の文化を理解し，表現を工夫するなどして自ら発信する力をつけることをねらう。

（２）アートリンク

クリエイティブ・コネクションズ [4]が主催する世界 56 か国に所在する生徒に，美術という媒体を通じてお互いの文化や生活様式等を紹介し合い，異文化の発見を促す活動である。「①外国に住む同世代の生活への認識を高め，理解する②新しい視点で自分自身の文化を見直す③考えを伝える手段として，美術の持つ力を発見する」をねらいとしている [5]。本年度のテーマは，「私たちのコミュニティー」で，本校では，７年生が自分の身近な地域社会の人々との交流や行事のよさを一版単色木版画で表現し，アメリカのパートナー校へ送る。加えて，作品完成後，英語科で作品を紹介する英語のビデオレターを作成し，併せて交流する。

６．研究の実際

６．１　実践事例１－１（美術）

（１）題材について（中学校２年生）

○題材名「願いや祈りの形～仏像の美～」

○学　年　８年生（中学校２年生）38 名

○実施期間　平成 27 年６月～７月

○題材の概要

本題材では，仏像の造形性に着目して，願いや祈りの形を個人思考やグループ対話により追究し，仏像の造形的動機とその造形理解を深めるようにする。なお，学んだことを日本美術の良さとして語ることができるよう，英語科と連携して英文カードを作成し，修学旅行でのホームステイ先の方との交流に生かすようにする。

○題材の目標

仏像が造形性と造形的動機として大きな意味を持っていることを学び，仏像に込められた願いや思いを形にしていく表現の魅力に関心をもつことができるようにする。

○学習計画（全３時間）

第１次　仏像の造形的動機と造形的特徴の理解（２時間）

第２次　仏像を模写・彩色（１時間）

（２）学習の実際

① 導入では，４人～５人編成の班ごとに 15 枚の仏像のアートカードを並べ，直感的に美しい，かっこいいと思う仏像のカードを１人１枚選び，「イメージ・擬音語，感情・仏像のつぶやき，造形的な特徴」等のヒントを出し，あてあう活動を行った。造形的なヒントを出し合い，仏像への関心を深めた（図２）。

② 展開では客観的に魅力的な仏像の特徴を理解するため，教科書や資料集を活用して調べ，グループで交流した（図３）。生徒は主体的に仏像の特徴に関する記述を探し出しまとめていた。

図２　仏像アートカードゲームの様子

図３　調べ学習の様子

③ 仏像表現のよさを外国の方々に紹介する目的で，カードに仏像を模写（図４）し，細部まで仏像を鑑賞した後で，願いや祈りの形についての説明と感想を 200 字程度の解説文にまとめる活動を行った。細部まで丁寧に模写する生徒や，自分なりにトリミングやデフォルメをして表現する生徒等，工夫が見られた。解説文は，事実，意見，根拠，呼びかけを入れるよう文例を指示した。その後の英訳は，英語科と連携し，英語科の授業で行った。

図４　模写の様子と作品

（３）成果と課題

① 「新しい可能性をイメージする力」について

表２は題材の事前・事後に実施した結果である。それぞれの質問項目に対し，４件法（４：あてはまる・３：ややあてはまる，２：あまりあてはまらない，１：あてはまらない）により回答した結果として，肯定的回答（４，３）の割合を示している。（以降表５・９も同様）

全項目で事後の増加が見られる。これは，修学旅行につないだ題材設定の効果ではないかと考える。また，１時間の授業の振り返り「今日できるようになったこと，ついた力」の欄を設け，１時間の授業目標に即して，生徒が自分についたと実感することができた力を記述している。このようなメタ認知活動によっても，自分にとっての本時の学習の価値を見出すことができているのではないかと考える。

また，修学旅行を終えて，「自分の作品で，日本の美術作品の良さを伝えることができた。」「とても感心して見入ってほめてくださり，うれしかった。」「日本の文化にとても興味を持っていることがわかった」等，自分たちの造形活動の効果を実感できたことがうかがえる感想が多数見られた。

表２　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
片付けなど分担された仕事をすることは大切なことだと思う）。	78.9	97.4	18.4
今回の学習で美術を学習することには意味があると思う。	86.8	100.0	13.2
美術で学んだことと自分の生活をつないで考えることができる。	76.3	100.0	23.7

② 「造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力」について

本題材では，協同的な鑑賞活動を取り入れ，パ

フォーマンス課題，ルーブリック評価を表３のように設定した。導入で仏像のアートカードを選択させ，その根拠を擬音語やつぶやきなどの簡単なヒントとして伝え合う鑑賞の活動について，表３の評価指標を用いて評価した。Ｃ評価の生徒はいなかった。生徒の感想として表４のような記述が見られた。

表３　「自分の価値意識を持って批評しあい，新しい価値を作り出す力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
鑑賞の活動において，学習課題について，「個人の考えを持つ→小集団で話し合う→個人でワークシートに振り返る」学習活動を行う。	自分の考えを色や形などの造形的な要素を根拠として語ることができる。 お互いの視点の違いに気づいたり，ユニークな考え方を尊重した発言や記述ができる。	自分の考えを語ることができる。 相手の話を黙って聞くことができる。	自分の考えを語ることができない。 相手の話を黙って聞くことができない。

表４　仏像アートカードゲームの感想

- みんなの出す擬音語がおもしろくわかりやすかったので楽しかった。また，つぶやきで，とても合っている言葉も出ていたので，これからも仏像を見に行ったら，どんなつぶやきを言っているのか考えてみようと思った。
- １つのカードから自分が考えていなかったイメージがみんなから出てきたからすごいと感じました。
- 仏像の特徴を探してみると結構たくさんあった。いろんな仏像がいて，すこし興味を持つことができた。

また，事前・事後アンケートの肯定的回答の割合は表５のとおりである。３つの項目について，事前から事後では 10.5%の増加が見られた。これは，仏像のアートカードを用いて，ゲーム感覚を取り入れた鑑賞活動を行った際,自分の考えを分かりやすく伝えたり，友だちが出すヒントをしっかり聞いて，活動したことによる効果ではないかと考える。

表５　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
相手の気持ちを考えながら，声をかけたり関わったりすることができる。	89.5	100.0	10.5
友だちの様子などをみて，どうしたらいいか考えて行動することができる。	86.8	97.4	10.5
声の大きさや話し方に気を付け，聞き手にわかりやすく話すことができる。	86.8	97.4	10.5
作品を鑑賞するとき，自分の考えをもち，友だちの考えを尊重しながら話し合うことができる。		100.0	

③　表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力について

本題材では，模写を含めた鑑賞における問題解決力を見とるようにした（表６）。

「Ａ表現」の具体的なパフォーマンス課題は「自分のとらえた思いや願いを色彩等でイメージし，オリジナルの仏像カードの構想をし，表現する」である。評価結果は，Ａ：16 人，Ｂ：16 人，Ｃ：７人であった。「Ｂ鑑賞」の具体的なパフォーマンス課題は，「なぜ，その仏像に引き付けられたのか，その根拠を教科書や資料集等の情報をもとに明らかにし,文書にまとめる」である。これについては，Ｃ評価の生徒はなく，全員が資料から必要な情報を見つけ出し，授業者が示した定型文を参考にしながら，説明文を完成させることができた。また,「調べたことをもとに新たに考えたこと」として，表７のような記述が見られた。

表６　「表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
「A表現」の活動において，表したいことのもとに思考・判断・表現し，作品創造する。	自分との関係をとらえた深い主題を生み出し，自ら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして構想を練り，粘り強く創造的に表現できる。	主題を生み出し，見通しを持って，粘り強く創造的に表現することができる。	主題が定まらず,ねばり強い取り組みができない。
「B鑑賞」の活動において，自分の価値意識の根拠となる情報を収集し，それらを活用して説明する。	多様な情報を収集し，説得力のあるものを取捨選択して活用したり，造形要素を引用してわかりやすく表現することができる。	根拠となる情報を収集し，それらを活用して自分の考えをまとめ，説明することができる。	根拠となる情報を見つけることができず,自分の考えをまとめることができない。

表７　調べたことをもとに新たに考えたこと

- 道具で修業の内容がわかる。
- あの静かな感じは，未来を考えてるとわかりました。
- 守る神だから強そうに見せるため，鮮やかに目立つようにして強い思いを込めている。
- 教科書などで，細かく調べてみると，新しくイメージがたくさんわいてきた。
- あんなに古くに作られたものがこんなにきれいに残っているのがすごいし，その時代にこんなに大きい仏像を創る技術をもった人がいたことに驚いた。
- 昔の人も芸術としてみていたんだろうか？

また，事前・事後アンケートの肯定的回答の割合は表８のとおりである。４つすべての項目について，事前から事後に 5.3～15.8%の増加が見られた。３時間の題材ではあったが，一部に課題発見，解決学習の手法を取り入れ，外部へ発信するという目的を持ち，見通しを持って取り組んだことが，主体的な学びにつながったのではないかと考える。

表８　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
表現や鑑賞に取り組む時，計画を立てて行動することができる。	81.6	97.4	15.8
今，美術で，目標を持って頑張っていることがある。	89.5	94.7	5.3
美術で新たに挑戦してみたいことがある。	81.6	97.4	15.8
最後まであきらめずに表現や鑑賞に取り組むことができる。	86.8	97.4	10.5

６．２　実践事例１－２（英語）

（１）単元について（中学２年生）

○単元名　Let’s introduce about Japanese cultures with pictures.

○学　年　　８年生（中学校２年生）79 名

○実施期間　平成 27 年９月～12 月

○単元の概要

中学校８年生は，12 月に修学旅行で沖縄に行った際，半日アメリカ人家庭でショートステイを行う。本題材は，ホストファミリーと英語でコミュニケーションをとる際に，自国の文化を理解し，表現を工夫するなどして自ら発信する力をつけることをねらいとしている。コミュニケーションの話題づくりとして，美術で制作した「仏像」と「鳥獣人物戯画」の模写作品を英語で紹介する日本文化紹介カードを作成した。英語で紹介文を作る際には，既習事項だけでなく，受動態などの新出事項を交えながら，ホストファミリーに伝わる表現内容を吟味して学習を進める。

○題材の目標

仏像と鳥獣人物戯画について英語で紹介する活動をとして，日本文化に興味関心を持つだけでなく，英語でコミュニケーションを取るためのスキルを高める。

○学習計画（全４時間）

第１次　定型文の指導と紹介文の作成（２時間）

第２次　紹介文の清書（１時間）

第３次　振り返り（１時間）

（２）学習の実際

①　仏像や鳥獣人物戯画の紹介文を考える指導では，紹介文の書き方を導入した。日本語の言い回しをそのまま英語に表現することは難しい。ここでは，鳥獣人物戯画の場合の流れを示す。最初に，既習事項を用いながら，自分が模写した動物の紹介文を簡潔に表現できるような言語材料を提示した。例えば，模写した動物がどんな動作をしているか，その動物を選んだ理由，鳥獣人物戯画には多くの動物が登場するなどである。これらは既習事項である現在進行形，接続詞 because，there is（are)を用いて表現することが可能である。図５のように，辞書を用いて適切な表現を探しながら，書こうとする姿が見られた。しかし，鳥獣人物戯画全体の説明文は，新出事項である受動態を用いて表現するため，自由英作文にすると難易度があがってしまう。そこで，定型文として書くように例文を提示し，清書用紙にもあらかじめ印刷して思考部分からは省くようにした（図６と図７)。このように，自由度を上げて自分で工夫して書く部分と，指示した定型文を書く部分とを設けることによって，難易度が極端に上がることを避け，辞書などを活用しながらでも，最後まで諦めずに絵に合う英文を探して表現しようとする意欲を高められるように工夫した。

②　半日アメリカ人家庭でショートステイした際に，自分がどのようにコミュニケーションを試みたか，どのような反応が返ってきたかなどを交流した。生徒は主体的に自分の様子を振り返り，学習のまとめを書き，考え方や感じ方の変容をまとめていた。

図５　英訳の様子

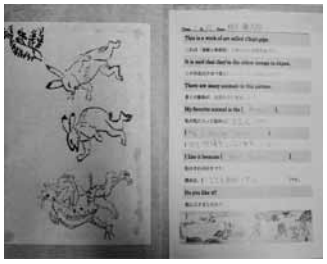

図６　鳥獣人物戯画と英文

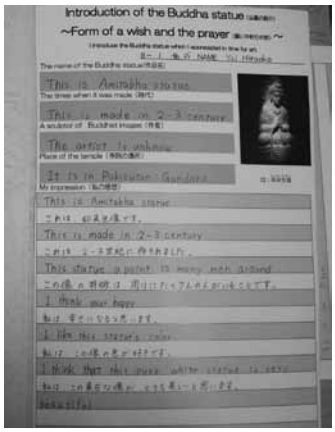

図７　仏像模写と英文

（３）成果と課題

①「コミュニケーション能力」について

図８と図９は題材の事後に実施した結果である。それぞれの質問項目に対し，５件法（５：よくあてはまる４：どちらかというとあてはまる・３：どちらともいえない２：どちらかというとあてはまらない，１：全くあてはまらない）により回答した結果を示している。図８の肯定的評価 46%の結果を裏づける生徒の記述には次のようなものがあった。

- 日本文化を知るとともに，それを英語になおすことでコミュニケーション力を高められた。
- 私の班は，Ｅアド中ほとんど英語で話していたので，会話が切れた時に紹介カードを伝えて，10 分くらいは盛り上がって話もできたので良かったです。
- 文化の紹介とかを英語で書くことは難しかったけど，紹介カードがあったから若干の説明はできたかなと思いました。帰る時にカードを渡したけど，ホストファミリーは絵が好きな人で，結構盛り上がったのでよかったと思う。
- 仏像や鳥獣人物戯画を渡したことで，ホストファミリーにすごく喜んでもらうことができて，会話が弾み，すごく仲良くなることができたから良かったです。

これは，半日ホストファミリーと英語を使ってコミュニケーションを行う中で，紹介カードが話題作りの一つとして活用できた効果であると考える。

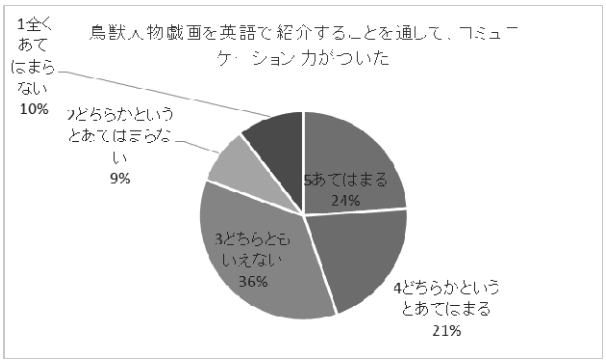

図８　コミュニケーション力に対する評価

②「自己存在感・自己有用感」について

肯定的評価と否定的評価が同数の 27%であった。どちらとも言えないと考える生徒は 46%であった。事後の振り返りの中で「自国の文化を知り，英語で発信する力をつけることについて，あなたの考えを書きなさい。」との発問に対する生徒の記述である。自国の文化を知るよい機会にはなったが，それを相手に伝える発信部分に対して満足を得ていない記述が多かったことから，どちらとも言えないと回答している生徒が多かったことが考えられる。

- 自国の文化は知っていたけれど，それを英語で発信することができなかったです。
- 自国の文化は理解していたけど，紹介カードの時以外に発信するタイミングを見つけることができなかった。
- 自国の文化を知ることができたのでよかった。発信することは，文化について話して伝えることができなかったので，リベンジしたい。
- 文化を知ることは，プレゼント（＝紹介カード）を作る時に知ることはできたが，発信することはあまりできなかった。
- 「仏像」や「鳥獣人物戯画」の紹介では，渡すタイミングがうまくなくて，それについて交流することはできなかった。もっと話題を増やして，沈黙の時間を減らしたい。

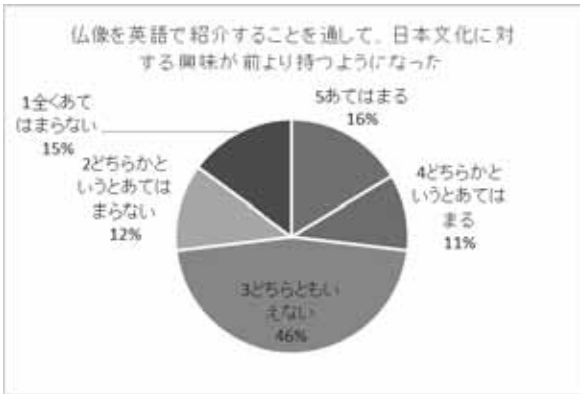

図９　自己存在感・自己有用感に対する評価

６．３　実践事例２－１（美術）

（１）題材について（中学校１年生）

○題材名　私のコミュニティー
　　～私の町を私の目で見る～

○学　年　７年生（中学校１年生）(41 名)

○実施期間　平成 27 年 9 月～平成 27 年 11 月

○題材の概要

本題材は，自分の身近な地域やそこに住む人と自分との関係を見つめ，主題を生み出すとともに，そのよさや美しさを一版単色木版画で表現し，外国の人々に伝えることを目的とした問題解決学習とする。完成作品はアートリンクを通してアメリカの中学生と交流し，お互いの文化や表現のよさを伝え合う楽しさを味わわせる。完成までの見通しを持ち，構図や白黒のバランス，彫りや刷りを工夫しながら一版単色木版画の表現の基礎を身に付けるとともに，自分が設定した主題を一版単色木版画で生き生きと表現するにはどうしたらよいか探究させる。また，伝えることを目的とし，粘り強く主題と技法を関連付けながら取り組ませる。

○題材の目標

身近なコミュニティーを版画で表現する活動を通して，完成までの見通しをもって，自分の思いを表現するための技能を身に付け，その楽しさを味わう。

○学習計画（全 11 時間）

第１次　主題設定と下図づくり（３時間）
第２次　彫り（４時間）
第３次　刷り（３時間）
第４次　鑑賞（１時間）

（２）学習の実際

①　５月にアートリンク事務局の方がアメリカから学校訪問された際，中学校１年生とも昼食時間や昼休憩に交流をもち，絵画による交流について実感が持てるようにした。

図 10　アートリンク事務局との交流

②　アートリンクのテーマ（図 11）に沿って，ワークシート（図 12）を示し，生徒に主題を発想させ，下絵のスケッチを夏休みの課題として作成させた。

「私のコミュニティー
～私の住む町を私の目で見る～」

そこに住む人にしかわからない，あなたの住む地域での出来事，あなたの近所，住んでいる町の様子を描いてください。

図 11　アートリンクのテーマ

（略）
夏休みを利用して，下絵になるスケッチを**自分を主人公**にして描いて来ましょう。
9 月から，**木版画**で表現していきます。（彫刻刀も準備しておこう）
1　テーマ（ジャンル）
A：友だち同士，家族とのやりとりを楽しんでいる様子
B：地域の人々とのやりとりの様子や通学，習い事などの様子
C：地域の美しい風景や，名所を楽しんでいる様子
D：ボランティア活動をしている様子
E：地域の伝統的な行事等に参加したり，見学したりしている様子
（以下省略）

図 12　ワークシートの内容

③　伝えたい主題をより生き生きと伝えることを意識して，白黒の墨入れを工夫したり，彫刻刀の種類を選択して彫り跡を工夫したり（図 13），くっきりと刷るためのポイントに気を付けてグループで協力して刷ったり（図 14）した。そして，完成した作品（図 15）についてアートリンクが指定した解説シート（図 16）を作成して，英語科でのビデオ作成へつないだ。

図 13　彫りの様子

図 14　刷りの様子

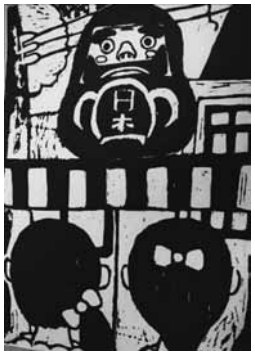

図 15　完成作品図

解説シートの内容

1 ここに描かれているコミュニティー
2 コミュニティーの活動・習慣・伝統など，誰がどこで何をしているか
3 作品に描かれている価値観とその価値が自分にとって大切な理由
4 家族紹介
5 余暇の過ごし方
6 好きなもの，嫌いなもの
7 将来の夢

図 16　解説シートの内容

（3）成果と課題

①　新しい可能性をイメージする力について

題材の導入において，アートリンクの趣旨を説明し，自分の身近なコミュニティーの良さを探すことを夏休みの課題としたところ，「祭りなどの行事」「風景」「近所の方との会話」「登下校の様子」などから，全員が他者に語れるよさを見つけスケッチしてくることができた。また，事前事後生徒質問紙調査の肯定的回答の結果は，表 9 のとおりであり，美術の学習の意義については，95.1%（3.0%増）であったが，学習と生活とをつないで考えるについては，80.5%に留まった。

事後の振り返りの，「美術は社会であまり役立たないと思っていたが，外国とつなぐものになるとわかった。」「作品制作の時にとても伝えたいことがあったので，とても簡単にビデオレターができた。」などの記述から，美術を通した異文化交流の可能性に気付いたり，意欲を高めたりしている生徒がいることがわかる。

表 9　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
今回の学習で美術を学習することには意味があると思う。	92.1	95.1	3.0
美術で学んだことと自分の生活をつないで考えることができる。	84.2	80.5	−3.7

②　造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力について

アイデアスケッチや，墨入れの段階で，「伝えたい主題が文化の異なるアメリカの中学生に生き生きと伝わるか」という視点をもち，グループで意見交流をし，「何をしているのかや表情がわかりやすいように人物やその動きを大きく表現する。」「主題につながるような道具や漢字を目立たせる」のアドバイスをし合うことができていた。また，刷りの段階においては，協力して刷り，お互いの試し刷りの状況を確認しながら，ローラーへのインクのつけ加減やバレンの力の込め方や動かし方について指摘し合い，一番美しく刷り上がった作品をパートナー校へ届けようと頑張っていた。事前・事後の生徒質問紙調査の肯定的回答は，表 10 のとおりである。すべての項目において，90%以上の生徒が肯定的にとらえることができている。

表 10　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
相手の気持ちを考えながら，声をかけたり関わったりすることができる。	92.1	97.6	5.5
友だちの様子などをみて，どうしたらいいか考えて行動することができる。	94.7	95.1	0.4
声の大きさや話し方に気を付け，聞き手にわかりやすく話すことができる。	94.7	90.2	−4.5
作品を鑑賞するとき，自分の考えをもち，友だちの考えを尊重しながら話し合うことができる。	92.1	90.2	−1.9

③　表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力について

導入において，一版単色木版画の制作手順の見通しを持たせるとともに，生徒が各制作段階において，本時の課題を明確にできるよう，毎時間の振り返りに，

次に頑張ることを記載させるようにした。生徒は主題を効果的に伝えるため構図や表情を工夫したり，黒白のバランスを考えて墨入れをしたり，彫りあとの効果を考えた彫刻刀の選択や安全に気を付けた彫り方を工夫した。また美しく刷り上げるため，試し刷りから本刷りにかけて気をつけることを確認して取り組んでいた。

事前・事後の生徒質問紙調査の肯定的回答は，表 11 のとおりである。

表 11　事前事後生徒質問紙の肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前	事後	事後－事前
表現や鑑賞に取り組む時，計画を立てて行動することができる。	89.5	87.8	-1.7
今，美術で，目標を持って頑張っていることがある。	84.2	87.8	3.6
美術で新たに挑戦してみたいことがある。	89.5	87.8	-1.7
最後まであきらめずに表現や鑑賞に取り組むことができる。	97.4	95.1	-2.2

表 12 「表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
「A表現」の活動において，表したいことのもとに思考・判断・表現し，作品創造する。	自分との関係をとらえた深い主題を生み出し，自ら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして構想を練り，粘り強く創造的に表現できる。	主題を生み出し，見通しを持って，粘り強く創造的に表現することができる。	主題が定まらず，ねばり強い取り組みができない。

表 12 のパフォーマンス課題を設定し，評価した結果Ａ：34%，Ｂ：66%，Ｃ：０%であった。Ａの判定に際しては，「①自分との関係をとらえた主題を伝える工夫がある。②表現意図に合う下図や彫りの工夫がある。③粘り強く取り組んだ跡が見える。」に細分化し，すべてにおいて十分達成していると判断されるものをＡとした。なお，この評価により，問題解決の各過程においては，次の①～③の指導が必要であることが課題として残った。

①主題については，単なる場面ではなく，ストーリーが語れるようにしておくこと

②生徒一人一人が準備した主題をもとに下図を作成していく段階においては，一枚の絵から，自分が伝えたいストーリーが伝わるように，主となる人物と背景の配置だけでなく，細部の表現を工夫すること

③彫りの段階では，部分的に彫ることだけでなく，下図と刷り上がった版画作品，版木の関係を全体的にとらえさせ，どうしたら，どのように仕上がるのかという見通しを持たせて粘り強く取り組ませること

６．４　実践事例２－２（英語）

（１）単元について（中学１年生）

○単元名　Let’s introduce your woodblock print!

○学　年　7 年生（中学校 1 年生）81 名

○実施期間　平成 27 年 12 月～1 月

○単元の概要

本題材は，自分の身近な地域やそこに住む人と自分との関係について，美術で作成した木版画を英語で外国の人々に伝えることを目的としている。完成作品について英語で紹介するビデオを作成し，アートリンクを通してアメリカの中学生と交流し，お互いの文化や表現のよさを伝え合う楽しさを味わわせる。既習事項の現在進行形を使って作品の良さを伝えることや外国の友達に伝わりやすくするためにはどのような話しぶりが大切かなどを学習していく。

○題材の目標

木版画について英語を使って外国の友達に紹介し，外国の友達と交流することの楽しさを味わう。

○学習計画（全４時間）

第１次　作品紹介文の作成（１時間）

第２次　作品紹介のビデオ撮影（２時間）

第３次　振り返り（１時間）

（２）学習の実際

①　作品の紹介について既習事項の現在進行形の文を用いながら表し，５行でまとめさせた。自分の作った版画を見ながらどのような単語や表現の方法でその絵を表せるか考えながら文章を書かせていった。

②　班で各自の版画についての紹介ビデオを作成していく。各自が作成した版画紹介文を持ち寄り，班の中でどのように一人一人の版画を紹介していくのか，紹介ビデオの流れを考えた上で撮影に臨んだ。

図 17　ビデオ撮影をする様子

③紹介文を作成し，英語で相手に自分の作品を伝えることについて振り返りを行った。以下に生徒の記述を載せる。

・長い時間をかけて作成したからもっとよりよくしたいと思い，手をつけるなどの工夫をして英語で紹介しました。全員のタイミングが合わなかったり，顔が怖かったりしたりして何度もやり直しをしたからこそ良いビデオが撮れたと思います。
・日本語で伝える時よりも英語はとても難しくて大変だったけど地域を外国の人に知ってもらえて良かったです。
・日本語の文を英語に直したときに知らない英語が出てきたけど発音できて良かった。
・難しい単語を使っていてとても文を作ったり，覚えたりするのは大変だったけどその分ビデオを撮り終わった後の達成感がすごかったです。
・自分の英語の発音の悪さを実感した。やっぱり英語が良い方が聞き取りやすいし，分かってもらえやすい。自分はまだ「カタコト英語」だからもって聞き取りやすい英語の発音をしたい。
・日本の文化や今の日本を海外の方に知ってもらえる機会なので，「伝える」を意識してやってきたので少し達成感を感じた。

（３）成果と課題

今回の実践を通しての成果は２点ある。１点目は，作品の紹介ビデオレターを作ったことを通して，生徒自身が自分の英語の発音や表現力に目を向けるきっかけとなり，もっと英語力を向上させていきたいという英語学習への意欲が増したことである。「もっといい発音で話したい」や「もっと単語を覚えたい」などの感想が多く挙げられた。

また，２点目は相手への意識をもって「伝える」ということに重点をおいて話すことができた点である。そのため，多くの生徒が英語で話したり，ジェスチャーを入れて説明したりするなど工夫して話すことができていた。

一方課題としては，紹介文の文構成においてオリジナル性に欠けていた点である。どの生徒の文も定型的な表現しか見られず，自ら新しい文を付け加えたりすることができていなかった。そのため今後は，柔軟な表現力と，語彙力を高めていくために日頃から様々な文章に触れて表現を知っていくことや，単語テストを行って語彙力をつけていくなど指導の改善をしていきたいと思う。

７．成果と課題

〇成果・●課題

（１）単元・題材開発について

〇英語科と連携し，実践力の育成を意識し，自作の美術作品や解説文を使って日本文化を海外の方へ伝えると言う形で美術を生活に生かす題材開発ができた。

〇海外の方とコミュニケーションを取るための材料と対する興味関心を持つ機会を作ることができた。また，次回の交流に対するモーチベーションも上げることができた。

●意欲の向上が創造的な技能の向上につながるよう指導の工夫が必要である。

●生徒の感想文を分析すると，美術作品を英語で説明する活動は，生徒の意欲関心を高める効果があることが分かったが，コミュニケーションを継続して行うことができるだけの語彙力を身に着けさせる指導が必要である。

（２）実施の効果について

①　生徒質問紙調査の結果

〇美術科の資質・能力に係る質問紙項目では，８年生は全質問項目，７年生は４割の質問項目で肯定的回答の向上が見られた。また，生徒の記述や様子と合わせてとらえることができた。

●美術科の質問紙調査の項目は，本学校園が研究開発中の新領域「希望（のぞみ）」で実施しているものに準じて作成した。教科の資質・能力の見とりに適するといえるのか検討を要する。

●英語科においては，質問紙調査による事前調査が実施できなかったために，事前事後の変容に関する検証が不十分であった。美術科と合わせた事前と事後の調査を計画及び実施を要する。

②　パフォーマンス課題・ルーブリックによる評価とその分析

〇美術科においては，３つの通教科的能力に係る基本のパフォーマンス課題と３段階のルーブリックの設定し，異なる学年や題材に応用して，共通の視点で評価しようと試みることができた。

●他教科との関連を図った題材ならではの評価規準の開発が課題である。

●英語科においては，本題材における課題対応能力を図ることが難しかったため，通教科的能力に関わるルーブリックの設定はできなかった。

③　生徒の振り返りや感想の内容分析

〇英語科と連携し，海外の方に伝えることを意識したことにより，美術の授業では，生徒が模写や日本の文化の理解に熱心に取り組む姿が見られた。また，ホストファミリーの方に褒められたり，日本文化への理解を示しめされたりしたことで，美術による異文化交流の可能性に気付き，またチャレンジしてみたいという意欲を持つことができていた。

○英語科と美術科がコラボすることによって，絵と英文を用いてホストファミリーとコミュニケーションを取る活動を計画することができた。この活動は，生徒にとっては非日常な経験であるとともに，日本の文化を知り，そのよさを海外の方に発信できる貴重な機会にもなり，生徒の学習意欲の向上に効果があった。

●生徒の感想文を分析すると，仏像や鳥獣人物戯画をきっかけにコミュニケーションを取ることができた点は良かったけれど，仏像の会話に出てくる単語の難易度が高く，説明がうまくいかなかった場面があったようである。

（３）外部評価者による評価について

①　アメリカのアートリンク担当者による評価

生徒が作成した版画については，とても美しく気に入っているという感想をいただいた。またビデオレターについては，版画を見せたり意見を共有したりするには一番良い方法であると評価をいただいた。生徒たちの英語でのパフォーマンスについてもすばらしく，英語の発話もとても上手であるという評価をいただいた。継続して交流をしていき今後海外の生徒からのビデオレターでの返事を待っていきたいと思う。

② ショートステイ家族による評価

生徒にはホストファミリーに作品を見せた後に感想を書いてもらうように指導していた。76 名の生徒のうち，レポートを提出したのは 50 名であり，感想をもらえた生徒は 22 名だった。その感想の内容を分析すると，amazing, wonderful, cool, moving, cute 等の形容詞を用いて絵のクオリティーを褒めている内容が多かった。鳥獣人物戯画については，ウサギやカエルの動作に注目したコメントが目立った。例えば，キツネの親子が旅行をしていると説明した生徒に対して，ホストファミリーは“It looks like the rabbit is falling down.”とコメントしている。生徒が書いたレポートには，「『おー，すごいね。これは何？そうなの，すごいね。何をしているの？』などの反応がなどであり，気にいってくれたと思う。何の絵かはすぐにわかってくれた。」とあった。たとえ生徒の英文がうまく伝わらなくても，絵を説明が補えたことが分かる。しかしながら，ホストファミリー間で生徒に対する対応の差が大きかったために，仏像や鳥獣人物戯画を用いた対話をする時間が得られなかった生徒もいた。その場合は，別れ際にプレゼントとして絵を手渡しているため，ホストファミリーからは“Oh, it’s pretty. It looks nice.”などの短いコメントのみで，作品の内容に触れられていないため，十分な評価として分析でききれなかったという課題が残った。しかしながら，生徒の感想文には，絵を通して国際交流ができたことの喜びや面白みの記述があり，次回の交流に向けて意欲の高さが伺えた。

８．おわりに

今年度の研究で，美術科・英語科で教科間連携を行い，英語とアートを通したグローバル教育交流を通して，自分が表現したり鑑賞したりして気づいたよさや美しさを外国の方に伝える方法を考えて実践することができた。外国の生徒とアートを通して交流し，改めて自国の文化の良さに目を向けるきっかけとなった。美術や英語の学習に対しても意欲向上を図ることができる機会となった。さらに，自国の文化を伝えるためにはもっと自分自身が知っておかなければならないということを感じることができた。英語をツールとして作品を紹介していく際にも語彙の量や表現の豊かさが必要となり，十分身に付けることができていなかったので今後の課題として計画的に指導していきたいと考える。今後も継続的に外国の生徒と交流を続け，美術での技術力向上と英語での語彙・表現力の向上に向けて日々の授業での指導を改善していきたいと思う。そしてグローバルな視点で積極的にコミュニケーションをとっていける子どもの育成に力を尽くしていきたいと考える。

引用（参考）文献

１）中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（平成 27 年８月 26 日付）より引用
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm

２）研究代表者　勝野頼彦：平成 24 年度プロジェクト研究調査研究報告書教育課程の編成に関する基礎的研究　報告書５「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」p.26，2013

３）広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校「平成 27 年度　第 18 回幼小中一貫教育研究会要項」p.14，2015

４）Creative Connections :303 West Avenue , Norwalk,CT06850,USA
Hwww. Creativeconnections.org

５）Creative Connections :「日本・アメリカ　アートリンク教師用ハンドブック」，2015 年，Creative Connections